

国際コミュニティ学部3つのポリシー（2025年度生用）

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国際コミュニティ学部は、国際社会全体をひとつのコミュニティととらえ、Think Globally, Act LocallyとThink Locally, Act Globallyの理念をともに重視し、地域社会と国際社会における多様性とダイナミズムを理解できる思考力と知性を身につけ、良識と教養ある判断力を備えた市民を育成することを目的として、学生が卒業するまでに身につけるべき能力を、学士課程の学位授与の方針として、以下の通り定めます。

1. 知識・技能

講義、ゼミナールなどでの読む・聴く・書く・話すことの反復をとおして、地域社会の現状と課題や国際社会のダイナミズムを理解できる基本的知識を収集・整理・理解し、活用できるようになること。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した知識と技能を持って、自ら課題を発見し、課題の解決に取り組み、社会の将来や事態の推移を洞察することのできる思考力・判断力・表現力等の能力を持つようになること。

3. 協創力

多様な立場や価値観を尊重し、主体性を持って、世界や地域に生きる多様な人々と相互協力のできる市民としての知性と良識を身につけていること。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

国際コミュニティ学部は学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を次の通り定めます。学修成果については、シラバスに明示した成績評価基準による厳格な成績評価とともに、広島修道大学アセスメントプランに基づいた教育課程全体の評価の二つで評価します。

1. 基礎から発展へ

「学び」に必要な基礎的技法の修得を目的とする初年次授業科目を配置し、あわせて低学年の段階で世界や地域の現状を体験する機会を提供します。知識を修得する講義とそれを整理して自らの意見を発信できるゼミナール・演習、自ら課題を発見し、課題の解決に取り組む課題解決型科目をバランスよく履修できるよう工夫します。世界や地域において実地で貢献するための体験科目を配置します。《主専攻科目》を複数の科目群に区分し、それぞれに最低修得単位数を定め、4年間の学修に体系性を確保します。

2. 視野の拡大

豊かな人間性を培い、思考力・判断力・表現力を養うために人文・社会・自然にわたる多様な学問分野にかかる授業科目をできる限り配置し、個々の興味・関心に応じて履修できるように工夫します。

3. 経験の拡充

課題解決型科目、キャリア教育科目、留学制度等を利用した社会での実践や異文化体験を推奨します。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

国際コミュニティ学部は、様々な入学試験制度による選抜を通じて、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を受け入れます。選抜過程では、Think Globally, Act LocallyとThink Locally, Act Globallyの理念をともに重視し、地域社会と国際社会における多様性とダイナミズムを理解できる思考力と知性を身につけているかどうか、自己の在り方生き方を考えながら、課題を発見し解決していくための資質と能力を備えているかどうかを判断します。

国際コミュニティ学部が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1)知識・技能

高等学校における社会・国語・英語の教科に関する知識・技能。具体的には、地域社会や国際社会における多様性やダイナミズムへの関心や問題意識、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能、論理的に思考・表現する際の基礎となる日本語能力及び国際的なコミュニケーションの基礎となる英語の知識。

(2)思考力・判断力・表現力

社会の持続的発展や平和の実現のために文献を読解し、それをもとに自ら考察できる思考力・判断力と、その考察を論理的かつ説得的に示す表現力。

(3)主体性等

多様な人々とのコミュニケーションを通じて社会における相互理解を進め、様々な人々との協働を通じて国際社会・地域社会が抱える課題の解決に向けて取り組む能力。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、社会については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り社会を読み解く力の向上に努めてください。国語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。さらに、英語は国際社会を理解し世界の人々とつながるために必要です。

2. 入学試験制度と評価

国際コミュニティ学部で学ぶために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価するために、各学科で多様な入学試験を実施し、選抜します。

3. 国際コミュニティ学部の教育を通じて養う能力

国際コミュニティ学部のディプロマ・ポリシーに掲げる目的を実現するために必要な知識と技能を習得し、課題発見・課題解決に取り組み、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力を持ち、多様な人々と協働する能力を養います。

国際政治学科3つのポリシー（2025年度生用）

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国際政治学科は、コミュニティ間のグローバルなつながりから社会をとらえる視点を重視し、広島と世界各国・各地域との架け橋となり国際社会に積極的に関与することのできる人材の育成を目的として、学生が卒業するまでに身につけるべき能力を、学士課程の学位授与の方針として、以下の通り定めます。

1. 知識・技能

講義やゼミナール、異文化体験などでの読む・聴く・書く・話すことの反復をととして、日本と世界のさまざまな問題や国際社会のダイナミズムを理解できる基本的知識を収集・整理・理解し、活用できるようになること。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した知識と技能を持って、自ら課題を発見し、課題の解決に取り組み、国際社会や地域社会の将来や事態の推移を洞察することのできる思考力・判断力・表現力等の能力を持つようになること。

3. 協創力

多様な立場や価値観を尊重し、主体性を持って、さまざまな国の人々と相互協力のできる市民としての国際的知性と良識を身につけていること。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

国際政治学科は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を次の通り定めます。学修成果については、シラバスに明示した成績評価基準による厳格な成績評価とともに、広島修道大学アセスメントプランに基づいた教育課程全体の評価の二つで評価します。

1. 基礎から発展へ

国際政治学科が扱う多岐にわたる領域を整理し、順序性のある学修を可能にするために、ナンバリング制により主専攻科目を配置します。国際共通語である英語による実践的コミュニケーション力を高めるために英語科目を1年次から集中的に配置するほか、海外経験を推奨します。

2. 視野の拡大

国際社会のダイナミズムを理解するために、政治・法律・経済・文化などの多様な学問分野の科目を履修できる学際的なカリキュラムを工夫します。

3. 経験の拡充

国際社会や地域社会で活躍するための実践的な力を養うために、キャリア教育科目を配置するとともに異文化体験を推奨し、4学期制のもと、海外留学を実現しやすいカリキュラムを構築します。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

国際政治学科は、様々な入学試験制度による選抜を通じて、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、受け入れます。選抜過程では、Think Globally, Act LocallyとThink Locally, Act Globallyの理念を重視し、コミュニティ間のグローバルなつながりから社会をとらえる視点を有し、社会が直面する様々な問題を理解し、課題の解決へ積極的に関与するとともに、英語によるコミュニケーション力により広島と世界との架け橋となろうとする志向を備えているかどうかを判断します。

国際政治学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1)知識・技能

高等学校における社会・国語・英語の教科に関する知識・技能。具体的には、コミュニティ間のグローバルなつながりから社会をとらえる視点と国際的な政治・文化・歴史への知識、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能、論理的に思考・表現する際の基礎となる日本語能力及び国際的なコミュニケーションを行うための基礎となる英語の知識。

(2)思考力・判断力・表現力

政治的・社会的な出来事や問題に気づき、その事象や問題を理解するために文献を読解し、それをもとに自ら考察する思考力・判断力、その考察を論理的かつ説得的に示す表現力。

(3)主体性等

多様な価値観の共存を探りながら、主体性を持って人々とつながりを生む能力。同時に自らの意思を明確に表明しつつ、様々な国の人々と協力して課題解決を目指す能力。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、社会については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り社会を読み解く力の向上に努めてください。国語・英語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、自分の興味関心を広げるために、日本や世界の国々に関する様々な本を読むこと、多様な体験をしてみることを勧めます。

2. 入学試験制度と評価

国際政治学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1)一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と出身学校調査書によって多面的・総合的に評価します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、出身学校調査書に記載される主体性等に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2)共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績（英語の資格・検定のみなし得点を含む。）と出身学校調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3)総合型選抜

志望理由書に基づいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認したうえで、小論文試験等に基づいて知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに、面接等に基づいて、思考力・判断力・表現力及び主体性等を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置き、知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(4)学校推薦型選抜（公募）

志望理由書に基づいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認したうえで、入試制度の区分に応じた評価方法に基づいて知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等を評価します。

【専願】

学校推薦型選抜（公募・専願）〔英語方式〕では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・

表現力に重点を置き、主体性等の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

学校推薦型選抜（公募・専願）〔指定資格方式〕では、学力の3要素のうち、知識・技能及び主体性等に重点を置き、思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

学校型推薦型選抜（公募・専願）〔課題探究方式〕では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力及び主体性等に重点を置き、知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

学校長から推薦され、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と、出身学校長の推薦書、出身学校調査書によって多面的・総合的に評価します。学校推薦型選抜（公募・併願）では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(5)学校推薦型選抜（指定校・前期）

志望理由書に基づいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認したうえで、面接等に基づいて、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（指定校・前期）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、出身学校調査書、出身学校長の推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6)学校推薦型選抜（指定校・後期）

志望理由書に基づいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに、面接等によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価したうえで多面的・総合的に評価・判定します。

(7)学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書に基づいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認したうえで、面接等に基づいて、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、出身学校調査書、出身学校長の推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書に基づいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認したうえで、面接等に基づいて、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、出身学校調査書、出身学校長の推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8)帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(9)外国人留学生選抜

志望理由書に基づいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価したうえで、小論文、日本留学試験の成績と面接結果に基づいて評価・判定します。

3. 国際政治学科の教育を通じて養う能力

国際政治や世界の国々に関する知識を習得し、国際共通語である英語の力を伸ばし、社会における課題の発見及び解決を目指すことのできる能力、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力を持ち、多様な人々と協働する能力を養います。

(別表) 各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法 (◎は重点評価項目)

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜（前期日程）	◎	・ 個別学力検査 ・ 共通テストの成績 （共通テストプラス方式のみ） ・ 英語資格・検定 （共通テストプラス方式のみ） ・ 出身学校調査書	◎	・ 個別学力検査 ・ 共通テストの成績 （共通テストプラス方式のみ）		
	一般選抜（後期日程）	◎	・ 個別学力検査 ・ 出身学校調査書	◎	・ 個別学力検査	○	・ 出身学校調査書
	共通テスト利用選抜 （前期日程・後期日程）	◎	・ 共通テストの成績 ・ 英語資格・検定 ・ 出身学校調査書	◎	・ 共通テストの成績		
総合型選抜	総合型選抜	○	・ 小論文 ・ 出身学校調査書 ・ 自己アピール書	◎	・ 小論文 ・ 面接 ・ 志望理由書 ・ 自己アピール書	◎	・ 面接 ・ 出身学校調査書 ・ 志望理由書 ・ 自己アピール書
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜（公募・専願） 〔英語方式〕	◎	・ 英語 ・ 出身学校長の推薦書 ・ 出身学校調査書 ・ 自己アピール書	◎	・ 英語 ・ 面接 ・ 出身学校長の推薦書 ・ 志望理由書 ・ 自己アピール書	○	・ 面接 ・ 出身学校長の推薦書 ・ 出身学校調査書 ・ 志望理由書 ・ 自己アピール書
	学校推薦型選抜（公募・専願） 〔指定資格方式〕	◎	・ 出身学校長の推薦書 ・ 出身学校調査書 ・ 資格・検定等の証明書 ・ 自己アピール書	○	・ 面接 ・ 出身学校長の推薦書 ・ 志望理由書 ・ 自己アピール書	◎	・ 面接 ・ 出身学校長の推薦書 ・ 出身学校調査書 ・ 志望理由書 ・ 自己アピール書
	学校推薦型選抜（公募・専願） 〔課題探究方式〕	○	・ 小論文 ・ 出身学校長の推薦書 ・ 出身学校調査書 ・ 自己アピール書	◎	・ 小論文 ・ 面接 ・ 出身学校長の推薦書 ・ 志望理由書 ・ 自己アピール書	◎	・ 面接 ・ 出身学校長の推薦書 ・ 出身学校調査書 ・ 志望理由書 ・ 自己アピール書
	学校推薦型選抜 （公募・併願）	◎	・ 個別学力検査 ・ 出身学校長の推薦書 ・ 出身学校調査書	◎	・ 個別学力検査		
	学校推薦型選抜（指定校）	○	・ 面接 ・ 出身学校長の推薦書	○	・ 面接 ・ 出身学校長の推薦書	○	・ 面接 ・ 出身学校長の推薦書

	(前期日程・後期日程)		・出身学校調査書		書 ・志望理由書		書 ・出身学校調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜（附属校）	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 書 ・志望理由書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書

地域行政学科3つのポリシー（2025年度生用）

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

地域行政学科は、ローカルなコミュニティの有り様から社会をとらえる視点を重視し、政治・行政への知識を土台に地域社会のニーズを政策に反映させ地域と協働して課題解決を図り、地域社会の発展に貢献する人材の育成を目的として、学生が卒業するまでに身につけるべき能力を、学士課程の学位授与の方針として、以下の通り定めます。

1. 知識・技能

講義やゼミナール、地域体験などでの読む・聴く・書く・話すことの反復をとおして、広島や日本のさまざまな問題や地域社会の課題を実践的に理解できる基本的知識を収集・整理・理解し、活用できるようになること。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した知識と技能を持って、自ら課題を発見し、課題の解決に取り組み、地域社会の持続的発展の方策を企画・提案・実行することのできる思考力・判断力・表現力等の能力を持つようになること。

3. 協働力

多様な立場や価値観を尊重し、主体性を持って、地域社会のさまざまな立場の人々と相互協力し、活力を生み出す市民としての知性と良識を身につけていること。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

地域行政学科は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を次の通り定めます。学修成果については、シラバスに明示した成績評価基準による厳格な成績評価とともに、広島修道大学アセスメントプランに基づいた教育課程全体の評価の二つで評価します。

1. 基礎から発展へ

政治学と行政学を中心に政策科学的観点を加味し、順序性のある学修を可能にするために、ナンバリング制により主専攻科目を配置します。法学・経済学分野を含め、概論科目を1年次に集中的に配置するほか、地域体験科目の履修を推奨します。地域課題の発見・解決に継続的に関わるため、実践科目を配置します。

2. 視野の拡大

地域課題の多様性を理解するために、法律・経済・国際政治など隣接する学問分野の科目を履修できる学際的なカリキュラムを工夫します。

3. 経験の拡充

地域社会の活性化を担うことのできる実践的な力を養うために、課題解決型科目及びキャリア教育科目を配置し、4学期制のもと、地域で活動するカリキュラムを構築します。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

地域行政学科は、様々な入学試験制度による選抜を通じて、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、受け入れます。選抜過程では、Think Globally, Act LocallyとThink Locally, Act Globallyの理念をともに重視し、ローカルなコミュニティの有り様から社会をとらえる視点を有し、社会が直面する様々な問題を理解し、多様な人々と協働して新たな価値を生み出すことで、社会の持続可能性に貢献する志向を備えているかどうかを判断します。

地域行政学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における社会・国語・英語の教科に関する知識・技能。具体的には、ローカルなコミュニティの有り様から社会をとらえる視点と政治・行政や生活者としての知識、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能、論理的に思考・表現する際の基礎となる日本語能力及び国際的なコミュニケーションの基礎となる英語の知識。

(2)思考力・判断力・表現力

政治や社会の問題を解決するために文献を読解し、それをもとに自ら考察する思考力・判断力、その考察を論理的かつ説得的に示す表現力。

(3)主体性等

多様な価値観の共存を探りながら、主体性を持って多様な人々と人間関係を創造する能力及び自らの意思を明確に表明しつつ相互理解を図り、地域と協働して課題解決を目指し、社会の発展に貢献する能力。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、社会については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り社会を読み解く力の向上に努めてください。国語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、自分の興味関心を広げるために、日本や世界の地域社会に関する様々な本を読むこと、多様な体験をしてみることを勧めます。

2. 入学試験制度と評価

地域行政学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1)一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と出身学校調査書によって多面的・総合的に評価します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、出身学校調査書に記載される主体性等に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2)共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績（英語の資格・検定のみなし得点を含む。）と出身学校調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3)総合型選抜

志望理由書に基づいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認したうえで、小論文試験等に基づいて知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに、面接等に基づいて、思考力・判断力・表現力及び主体性等を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置き、知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(4)学校推薦型選抜（公募）

志望理由書に基づいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認したうえで、入試制度の区分に応じた評価方法に基づいて、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等を評価します。

【専願】

学校推薦型選抜（公募・専願）〔英語方式〕では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、主体性等の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

学校推薦型選抜（公募・専願）〔指定資格方式〕では、学力の3要素のうち、知識・技能及び主体性等に重点を置き、思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

学校型推薦型選抜（公募・専願）〔課題探究方式〕では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力及び主体性等に重点を置き、知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

学校推薦型選抜（公募・併願）では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(5)学校推薦型選抜（指定校）

志望理由書に基づいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認したうえで、面接等に基づいて、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、出身学校調査書、出身学校長の推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6)学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書に基づいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認したうえで、面接等に基づいて、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、出身学校調査書、出身学校長の推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書に基づいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認したうえで、面接等に基づいて、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、出身学校調査書、出身学校長の推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7)帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(8)外国人留学生選抜

志望理由書に基づいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価したうえで、小論文、日本留学試験の成績と面接結果に基づいて評価・判定します。

3. 地域行政学科の教育を通じて養う能力

政治学、行政学、政策学等に関する知識を習得し、地域の価値・魅力に気づく力を伸ばし、社会における課題の発見及び解決に取り組むことのできる能力、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力を持ち、多様な人々と協働する能力を養います。

(別表) 各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法 (◎は重点評価項目)

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜（前期日程）	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績（共通テストプラス方式のみ） ・英語資格・検定（共通テストプラス方式のみ） ・出身学校調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績（共通テストプラス方式のみ）		
	一般選抜（後期日程）	◎	・個別学力検査 ・出身学校調査書	◎	・個別学力検査	○	・出身学校調査書
	共通テスト利用選抜（前期日程・後期日程）	◎	・共通テストの成績 ・英語資格・検定 ・出身学校調査書	◎	・共通テストの成績		
総合型選抜	総合型選抜	○	・小論文 ・出身学校調査書 ・自己アピール書	◎	・小論文 ・面接 ・志望理由書 ・自己アピール書	◎	・面接 ・出身学校調査書 ・志望理由書 ・自己アピール書
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜（公募・専願）〔英語方式〕	◎	・英語 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・自己アピール書	◎	・英語 ・面接 ・出身学校長の推薦書 ・志望理由書 ・自己アピール書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書 ・自己アピール書
	学校推薦型選抜（公募・専願）〔指定資格方式〕	◎	・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・資格・検定等の証明書 ・自己アピール書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・志望理由書 ・自己アピール書	◎	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書 ・自己アピール書
	学校推薦型選抜（公募・専願）〔課題探究方式〕	○	・小論文 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・自己アピール書	◎	・小論文 ・面接 ・出身学校長の推薦書 ・志望理由書 ・自己アピール書	◎	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書 ・自己アピール書
	学校推薦型選抜（公募・併願）	◎	・個別学力検査 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書	◎	・個別学力検査		

	学校推薦型選抜(指定校)	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(附属校)	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書